

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

150周年記念音楽会とその後

湘南日独協会 会長 織田 正雄



5月9日湘南日独協会主催の記念音楽会「日独音楽家の集い」を盛大に開催することが出来ました。会員の皆様並びにご支援を戴いた多くの方々に厚く御礼申し上げます。記念の催しはこれからも続きます。最近の動き等をお知らせいたします。

(音楽会で挨拶される織田会長)

6月2日から4日迄、ミュンヘンでドイツの独日協会連合会の総会が開催され、日本からは木村敬三日独協会連合会会長代行、大阪日独協会から和田常務理事、湘南日独協会からは私と竹内三都子さんの4名が出席しました。例年ならば10名程度の出席者がおりました。

初日の会議は「Jugendaustausch 青少年交換」で20近い日独協会からこれまでの実績の報告と将来への希望が述べられました。交換は姉妹都市関係で行うのがやり易い。ドイツにはある青年部会が日本には無いので話し合いが出来ない。「マンガが青少年交流の良いテーマになりつつある。ベルリンではマンガクラブ会員が13万人居る。等の発言がありました。日本側で青少年交流を担当しておられる栃木日独協会橋本会長の提案(織田代読)「今年はドイツから東日本大震災の被災者へのボランティアを寄越さないか」の提案は「放射能汚染地に若者等は送れない」ときっぱり断られました。

二日目は神余駐独大使、Siemens 取締役、DOCOMO ドイツ社長の講演が主で、夜は大使の招宴がRathausで開かれました。

三日目は参加者全員による会議で、日独パートナー会議は三年ごとの開催とすれば次回は2014年との意見が大半であったが、2015年でも良いとの発言も出た。その後各協会が集めた日本への義捐金の詳細説明があり、totalではEUR 1,619,676.86になっていること、一部は提携している日独協会に送っているが、連合としては約124万EURを日独協会連合会へ送る。日独協会連合会はどこに届けるか検討し6月末迄に決めることを要望した。

宿題を幾つか渡された会議であった。その後、数か所の都市を回ったがどこでも日本への義援金を募集しているのが目についた。なお、150周年記念行事は10月23日の有栖川公園での閉会式で終わると言われていたが、ドイツ側では来年迄、延長を希望、23日はFestのひとつと言う考えに変わってきているのが近況です。(了)

湘南日独協会の活動予定

■76回例会「ビールのお話」

日時 7月24日(日) 13:30~

講師 吉田 克彦氏 当協会理事 モース研究会会員

「日本人による、日本人のための、日本初のビール」

長年のモース研究からビールに関する逸話が〜

ビールの季節真っ盛り、ますますビールが美味しくなることでしょう!

会場 江ノ電第2ビル7階

会費 1,000円

講演会終了後会場を出てビールを皆さんで楽しみましょう

参加費は別料金です!! 是非ご予約下さい!!

会場 モキチフーズガーデン 茅ヶ崎駅前

会費 4,000円

■8月の懇話会は休会の予定です

湘南オクトーバーフェスト

10月1日(土) 18:30(開演)

会場 グランドホテル湘南

会費 5,000円

エーデルワイス・トリオ、合唱団アムゼル他

完全予約制です、お早めにご予約下さい

同封の葉書のご利用か、電話でお申し込み下さい

詳しくは同封チラシをご覧ください!

お知らせ

写真展「歴史と未来を紡いで」

日独交流150周年記念の写真展、二国の歴史的な繋がりを多くの写真で知ることが出来ます。

なお、会場には織田会長ご提供の「ベルリンの壁」の実物の鉄筋付きの大きな塊が展示されています。

会場 日本新聞博物館 横浜日本大通り

(横浜日独協会後援)

期間 2011年7月31日迄

料金 500円 シルバー(65歳以上)400円

♪♪ 大盛會の日独交流150周年記念「日独音楽家の集い」 ♪♪

5月9日(月)在日ドイツ連邦共和国他多くの後援をいただき、日独交流150周年記念音楽会を開催しました。ゴールデンウィーク明けの月曜日、東日本大震災発生後2か月と主催側としては気を揉むことも多くありましたが、当夜は600席の鎌倉芸術館小ホールがほぼ満席となり出演者の熱演で終演後のロビーは名残を惜しむお客で遅くまで混雑しておりました。



(松尾鎌倉市長)

織田会長の日独交流150周年記念音楽会の意義、東日本大震災の犠牲者のご冥福と被災地の早期復興の願い、会場の募金箱へのご協力依頼の開会の挨拶がありました。続いて、ご多忙にも拘らずご来場頂いた鎌倉松尾市長からお祝辞と湘南日独協会の今後の更なる活躍を期待するとのお言葉がありました。そして演奏会の開始です。

第一部の最初の演奏は、湘南日独協会混合合唱団「アムゼル」、梶井智子さん指揮、内海祥子さんのピアノ伴奏で新曲「モラヴィアの6つの響き」歌いこんできた「楽しい ます変奏曲」それに湘南縁の「浜辺の歌」被災地への思いを込めて「故郷」の演奏でした。

「楽しい ます変奏曲」はモーツァルト風リスト風等で良く知られたメロディーで大変面白かったと好評でした。



(湘南日独協会混声合唱団アムゼルの演奏)

次に、ソロ、アンサンブル、後進の指導それにアマデウス合唱団の伴奏等に活躍されおられる首藤亜希さんのピアノ演奏。曲目はベートーベン作曲のピアノソナタ第14番嬰ハ単調作品27の2「月光」。広く知られた名曲中の名曲。首藤さんは「大震災で犠牲になられた方々のご冥福と被災された方々へのお見舞いを込めて」のメッセージを寄せての心のこもった演奏でした。満席の会場は深い感動に包まれました。



(首藤亜希さん)

第一部の最後は、ベルリンのフンボルト大学留学後、ドイツ・メクレンブルク州立歌劇場の専属歌手として、ヨーロッパを中心に長年活躍され、帰国後もリリックテナーとしてまた大学教授としてエネルギーに指導されておられる、梶井龍太郎さんの独唱。伴奏は楠山裕子さんの息のあった素晴らしい演奏でした。



(梶井龍太郎さんと楠山裕子さん)

(アムゼル練習中、打合せをする
梶井智子さんと内海祥子さん)

曲目は、モーツァルトの小ドイツカンタータ「限りない宇宙の創造者を崇拝する汝らは」。この曲は、自由・平等・博愛を標榜する秘密結社フリーメイソンの為にモーツァルトが作った人間への愛を伝える感動的な作品。次に良く知られたドイツリート、シューマンの名曲の数々。「美しき五月に」「君の瞳を見つめると」「ある若者がひとりの娘に恋をして」「君の姿は美しい」「君は花のよう」。最後にメイの「歌は世界に」。梶井氏のメッセージ「人はいつの時代にもつらい時に歌をうたって乗り越えて来ました。東日本大震災で被害に会われた方々早くお元気になって下さい。復興への希望を心こめて歌います。」 テノール独唱の醍醐味とリリックテノールの繊細な歌声に魅了されました。



(マヌエラ・ヤンケさんと 歩 マノン・ヤンケさん)

第2部は有希・マヌエラ・ヤンケ (ヴァイオリン)、歩・マノン・ヤンケ (ピアノ) 姉妹の演奏でした。大震災、原発事故の発生により、日本が危ぶまれておりましたが、お二人の御意志も固く記念音楽会にご出演下さいました。さらに、当日の募金への御協力も頂き演奏ともども大きな喝采得ました。

プログラムを始める前に、大震災に遭い亡くなられた方々のご冥福を祈り、シューベルトのアヴェ・マリアが演奏されました。

プログラムの曲目はチャイコフスキー「瞑想 作品42-1」ブラームス「ヴァイオリン・ソナタ 3番ニ短調作品108」ヤンケ姉妹はドイツ人の父と日本人の母の音楽一家に生まれ妹の有希さんは3歳からヴァイオリンを姉の歩さんは3歳からピアノを学び早くから、各地の国際コンクールで数々の優勝の実績を持ち、ソリストとしてまた有名オーケストラとの共演をするなど輝かしい経歴を重ねています。

お二人の共演は実に姉妹らしい気の合った演奏で心ゆくまで音楽を楽しむことが出来ました。鎌倉芸術館の舞台監督はヴァイオリンの音が鳴り出したとたん、「素晴らしい、最近これほどの素晴らしい音楽に出会ったことが無い！」と舞台のそでで呟いたそうです。これはアナウンスを担当しておられた、湘南日独協会の大澤由美子理事が聞いていました。

鳴り止まぬ拍手に、アンコールが演奏されました。曲目はブラームスのF.A.E. ソナタからのスケルツォ、客席はすっかり酔いしれてしまいました。

時間が来て名残惜しい音楽会は終了となりました。その後出演者の皆様との遅い食事会があり記念音楽会は盛会に終了しました。



(出演者の皆様とお手伝いを頂いた皆様との集合写真です。
多くの会員とそのご友人に篤く御礼申し上げます。)

日独音楽家の集いに参加して

会員 橋本周也



(歌う橋本氏)

新緑まぶしい薫風の季節、古都鎌倉の鎌倉芸術館小ホールで日独交流150周年を記念するコンサート「日独音楽家の集い」が開催され、「合唱団アムゼル」の団員として参加しました。

3月11日に起きた東日本大震災の直後は首都圏の電力事情が極度に悪化したこと関係国ドイツから日本への出国制限もあって予定の演奏者が来演できるかどうかなどの理由で、一時は開催が危ぶまれた。また、平日の夜の演奏会ということでお客の集まり具合も心配であったが、関係者の皆さんの熱い思いと行動力のお蔭でほぼ客席が満員となり、ここに目度く開演の運びとなった。

ご来場のお客様からの私たちのステージの評は、“年齢を感じさせない若々しい艶のあるハーモニーに驚きました。素晴らしかった。”“バランスのとれたハーモニーで心地よかった。”“日本の歌曲もあって調和がありとてもよかった。”などお褒めの言葉を沢山頂きました。

一方でメンバーからは“本番前のひと月は毎週のように梶井智子先生の厳しい特訓に耐え、練習に励んだ成果なのだ！”“難しい曲であったが、これで歌う自信が持てた。”などの感想があった。歌が終わった時に起きた満場の拍手に“えもいわれぬ達成感”を味わいましたが、団員の皆さんも恐らく同じ思いでおられるのではないだろうか。

次にプロの演奏家の登場で首藤亜希さんのピアノの独奏がありました。続いて梶井龍太郎先生のテノール独唱は美しいドイツ語と格調高い素晴らしいお声で、一昨年の平塚市民の第九のテノールソロを同じステージで聴かせて頂いて感動したのを思い出しました。

そして、最後のヤンケさん姉妹の演奏はやはりクラシックの本場ドイツから見た本物の演奏という絶賛の一言です。多くの方から声が寄せられていますので、そのうちのいくつかをご紹介します。“ヴァイオリンとピアノが絶妙でした。特にヴァイオリンの響(はかな)くまるで絹糸のような繊細な音色から強い意志を感じさせる音色まで、表現力、音楽がやはり本場(本物)だと思いました。”“演奏は会場の空間の空気をガラッと変えてしまうような音質で感動致しました。”“美しい音色が印象に残りました。正直、このような素晴らしい演奏を聴けるとは思っていませんでした。”など...

茲に、お運びいただいたお客様とこの演奏会の開催を支えて頂いた協会関係者およびスタッフの皆様へ感謝すると共に、いつかまたこのような演奏会が持てることを期して、新しい曲にチャレンジして行きたいと思えます。 以上

日独交流150周年記念 日独音楽家の集いを拝聴して いろいろ思ったこと

杉浦 裕

先ず 日独交流150周年 誠にありがとうございます。

長い歴史の中でいろいろなことがありましたが、双方の国の皆さんが素晴らしい絆を築いてこられて今日を迎えられたことは一人の日本人として大変うれしく思います。関係の皆様に心より敬意を表します。



(筆者杉浦氏)

大学時代からの親友である、三谷君から「今度このような催しがあるよ、聴きにこないか」との誘いを受け、喜んで参った次第です。私が予想していたよりも盛りだくさんで、素晴らしい演奏を聴かせていただき大変感謝しています。

混声合唱団「アムゼル」の皆さんの楽しい合唱、懐かしい曲をドイツ語で聴かせていただきました。

首藤亜希さんの「月光」は一般人にとってはポピュラーな曲なのですが、私にとっては新しい感覚でお聴きました、静けさ、重厚、激しさ と共に人の温かさをいただきました。

梶井竜太郎さんの明るい、喜びのこもったテノールでモーツァルト、シューマン、メーの素晴らしい曲に十分楽しませていただきました。

ヤンケ姉妹のデュエットは 特に素晴らしかったです。女性でありながら、(良い意味での) 力強さと細やかさ、さらに素晴らしいテクニックに感動しました。流石 姉妹ですね、お二人の呼吸のあった演奏にただ惚れてしまいました。

特にアンコールで演奏された曲 FAE SONATA (恥ずかしいのですが曲名を知らなかったので後日三谷君に聞いた次第ですが) は情熱的で素晴らしく、後日 お二人が東北大地震に合わせた皆さんへ「弔恨と励まし」の気持ちを込めて演奏された とお聞きして大変感激しました。

貴協会と私とのかかわりは、三谷君が社会人となり仕事の関係でドイツに留学され、帰国後貴協会に入られたのですが、ある時 貴会報に彼が寄せた文の中に「会長の岩崎先生」という文字を見つけたのです、私が高校生の時にドイツ語の指導をして戴いた先生が「岩崎英二郎先生」だったので、あれっ！と思い彼に電話をしたところ、同じ「岩崎先生」と判ったのです。高校時代はクラス担任としても大変お世話をかけっぱなしでしたが、思わぬ形で、しかも大学時代の親友を通しての再会になったわけで、「縁」という言葉を実感したのです。それから貴協会が岩崎先生が講義をされた時に、教室の片隅で60年前の様に受講させていただいたこともありました。

日独の交流が末永く続きますよう、貴協会がますます発展され舞うようお祈り申し上げます。

余談 ある時、高校時代の友人に「岩崎先生の講義をお聞きしたよ」と話したところ、「君が岩崎先生の教え子だ」ということがわかった 先生の品格に傷をつけるから黙っている」といわれました。高校時代の我々は大変なもので何時も先生にご迷惑をかけ続けだったのを楽しい思い出にしているのですが。

(右上に続きます)

私も仕事の関係でドイツの会社/BASF/と技術交流をしていて、何回かドイツを訪問し技術者と一緒に過ごした経験もあり、私にとってドイツは一番の近い国なのです、音楽でも多くの作曲家、演奏者に親しんでいるので、交流150周年という歴史が大変な重みを感じさせてくれています。 以上

鎌倉青少年ワイマール訪問

8月21日から26日まで鎌倉の中高生がワイマールを訪問します。この訪問によりワイマール市と鎌倉市、ワイマール独日協会と湘南日独協会の友好関係が更に深まることが期待されます。

織田会長が同行、鎌倉市との共催での報告会の開催を企画しております。詳細を決定次第案内致します。

会員情報

吉田克彦氏(会員理事)の湘南にまつわる話題118編を纏めた随筆集。「湘南の水族館」「小動岬のお台場」など湘南をめぐるバラエティに富んだ話題がいっぱい。 B5版200頁 定価本体1,300円
問合せ先: 江ノ電沿線新聞社出版部 0466-26-3028

本場ドイツで職人の技を学びませんか!

2012年度参加者募集(奨学金付)

募集業種: 製パン、製菓、食肉加工、フラワーデザイン、整形靴製造、家具木工製作、自動車技術

年齢制限: 原則35歳以下

プログラム: 2012年3月 ミュンヘンにてドイツ語研修、9月より受け入れ訓練所にて職業訓練開始、終了時に試験(ゲゼレ資格)を受験

問合せ先: NCDG 社団法人日本カール・デュイスベルク協会 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧5-35-3-101 E-mail 宮崎浩子 miyazaki@ncdg.jp

編集後記

○記念音楽会が終了しました。会員とのお知り合いの方々のご支援御協力、とくに合唱団アムゼルに感謝したいと思います。

○今回のDer Windは音楽会特集となりましたが、当日ご参加出来なかった方へ音が届けられないのが残念です。今回お二人のご寄稿を頂きました。ご感想等をお聞かせ下さい。

○恒例のオクトーバーフェストが近づきました。今年も楽しく愉快的フェストに多くの皆様のご参加を期待します。節電で暑い夏になりそうです。元気に乗り切り秋にお会いしましょう!

編集責任者 大久保 明

E-mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

★★ 湘南日独協会のホームページ ★★

URL: <http://jdg-shonan.ciao.jp/index.html>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。